

# かまクロ

鎌ケ谷クロスフィールド

発行：鎌ケ谷市民活動推進センター 発行月：令和3年1月 No46

## かまクロとは？！

鎌ケ谷市は4つの鉄道路線が乗り入れ、交差する「人と文化の交流拠点」として日々発展を続けるまちであり、自治会、市民公益活動団体、企業、行政など鎌ケ谷にある様々な組織が、その垣根を越えて“縁”を「クロス」- 交差 - するという思いを込めています。



### — SDGs ゴール 17 を知っていますか？ —

「SDGs (Sustainable Development Goals) : 持続可能な開発目標」は、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに国際社会が達成すべき目標です。地球温暖化を止める、貧困を減らす、生産と消費のバランスを取るなど、持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための17のゴールから構成されています。しかし、ゴールの達成は、国や自治体だけでできるものではなく、民間企業や市民公益活動団体、教育機関などが“協働”して取り組む必要があります。SDGsの目標達成に向けて、あらゆる人や団体・組織が知識や資源を活かして協力する、それがゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」です。

鎌ケ谷市は、「市民との協働に支えられた個性豊かなまちづくり」を目指しています。これからも地域における多様で複雑な課題解決に対し、多様な主体が協働によって横断的に取り組むことを推進していきます。

## Contents

- ◆表紙 SDGs ゴール17を知っていますか? ..... P1
- ◆協働アドバイザーコラム「オンライン会議のポイントと可能性」..... P2・P3
- ◆市からのお知らせ ..... P4

# オンライン会議の ポイントと可能性

## 三つのポイント リアクションを大きめに 黙っている時間を有効に ファシリテーター役を用意

新型コロナウイルスの感染拡大によってテレワークや在宅勤務が進むことの影響もあり、現在オンラインを使った話し合いの場が増加しています。Skype（スカイプ）やZoom（ズーム）といったオンライン会議ツールを活用して、離れた場所にいたり、移動するための時間が取りづらい仲間と、自宅やオフィスに居ながら打ち合わせや会議ができるようになりました。しかし、話し合いの効率や利便性が高まる一方、相手の反応が見えづらい、リアル（対面）の会議よりも話せる時間が制約されるなどの難しさもあります。

そこで、私がこの数か月実践してきた中から、オンライン会議を行う際のちょっとしたポイントを、お伝えしたいと思います。

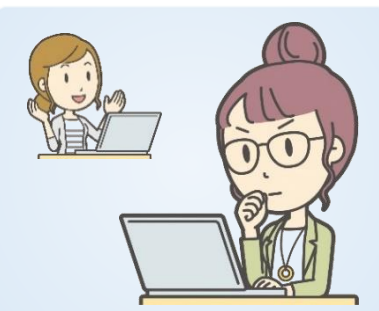
### リアクションを大きめに

オンライン会議では、目の前に直接人がいない分会議をしながら真顔になり表情が乏しくなってしまうのが特徴です。

リアルの会議よりも相槌やリアクション（反応）を少し大きめにとることで「発言者の話をしっかり聞いているよ」というアピールになりますので、「相槌をたくさん打つ」「首をかしげる」など、是非リアクションを大きめにとるよう心がけましょう。



### 黙っている時間を有効に



オンライン会議では、どうしても話す人と相手の一対一の関係とその他の参加者という構図になり、同時に複数人が話すことが難しくなります。場合によってはリアルの場よりも発言時間が少なくなるわけですが、話す時間が少ないのであれば黙っている時間を有効に使おうというのがポイントです。

例えば、チャットの書き込み機能を活用することで、他の人の意見を聞きながら考えをまとめ、発言をさえぎらずにコメントや質問ができます。

また、発言者の声がマイクを通すと対面で話すよりはっきり聞こえる環境を活かし、参加者の意見やアイデアを聞きながら、さらに良くするにはどうするかなどの考えを整理し、発言に活かすこともできます。

リアルではいかに発言をするか、など話すことに意識が向きがちですが、オンラインの環境をうまく使い“聴く”ことの力を伸ばす機会ととらえると良いでしょう。

### ファシリテーター役を用意

オンライン会議では、集中力がリアルよりも続きづらい傾向にありますので、いかに短い時間のなかで意義ある話し合いができるかということも重要です。

そこで、話し合いをしっかりと構造化し、前に進める「ファシリテーター」と呼ばれる存在がリアルの場以上に必要な存在となるため、この役目を担う人をあらかじめ用意しておきましょう。ファシリテーターは、会議の進行役として先に述べた二つのポイントなどを意識しつつ、議論が活性化するように、意見を参加者から引き出すとともに、参加者の意見や考えをまとめて整理し、時間内に合意形成へと導くよう会議を調整します。また、場合によっては会議を回していくために積極的にオンラインツールを使いこなす必要があるでしょう。

オンライン会議におけるファシリテーターとしての立ち振る舞いなどは、最近では講座や本なども増えてきていますので、関心のある方は是非チェックしてみてください。

ここまでオンラインでの話し合いの仕方について書いてきましたが、最近ではDX（デジタルトランスフォーメーション）という“オンラインなどの力を使ってこういった事業戦略が作れるか”という考え方も広がってきています。

使うツールにもよりますが、うまく活用すればオンライン会議だけでなく、講演会、ラジオ、シンポジウム、交流会など様々な場づくりをオンラインの良さを活かしながら開催することも可能です。

これからの時代、オンライン化の流れはより加速していくことでしょう。移動を最小限にしつつも、いかに人とのつながりを絶たずにライフスタイルを確立していくかなど、新たな価値観や生き方を考えていく必要が出てくるかもしれません。

今まで触れる機会の少なかったものを活用していくことはエネルギーのいることですが、是非周りの人たちと協力をしながらオンラインという新たな武器を使いこなしていきたいものですね。



協働アドバイザー  
影山 貴大

### オンライン会議ツール選びの注意点

今、さまざまなタイプのオンライン会議ツールが提供されていますが、ツールを選ぶ際には以下の点に注意しましょう。

- ☆安定した接続ができるかどうか  
映像や音声途切れ途切れになるようなことがあると、伝えたはずの情報が伝わらず、重大なミスにもつながりかねません。
- ☆誰でも簡単に使えるかどうか  
多機能なものほど使い方が難しいケースが多く、せっかく導入しても使われないことがあります。
- ☆セキュリティ対策が万全かどうか  
インターネット環境を通じた会議であるため、セキュリティ対策が万全でないと、情報漏れの危険性があります。



# 鎌ヶ谷市協働のためのアクションプラン22 現在策定中です

市では、市民との協働に支えられた個性豊かなまちづくりを目指し、平成17年3月に「市民との協働戦略プラン」を、平成27年9月に「市民との協働戦略プラン（改訂版）」を策定し、様々な施策に取り組んでいるところですが、計画の期間が令和2年度に終了することから、これまでの取り組みの検証や見直しを行い、現状の課題に対応した次期計画である、「鎌ヶ谷市協働のためのアクションプラン22」を策定しているところです。



ワークショップにおける意見交換

計画の策定にあたっては、市民の声を反映するために、これまでの施策や社会動向の分析、市職員へのアンケートに加え、市民公益活動を行っている市民を対象とした市民公益活動団体実態調査や、ワークショップ、インタビュー調査などを行い、地域課題の抽出、目指す未来像の設定などのプロセスを経ていきます。



ワークショップで出た意見

なお、この計画は、「鎌ヶ谷市総合基本計画」において、鎌ヶ谷市が協働と市民公益活動の推進に向けて実行する施策をまとめた個別計画として位置づけるとともに、これらの施策を市民と共有することで、多様な主体と行政が地域課題の解決に向けて手を取り合うための「コミュニケーションツール」としての役割も担っています。

本計画の計画期間は、「前期基本計画」に合わせ、令和3年度から令和8年度までの6年間としますが、今後の社会変化を踏まえて必要な場合は、計画期間にとらわれず速やかに見直しを行います。

## かまがや市民活動・男女きらりフェスタ

### 3月6日オンラインで開催します



昨年度のフェスタ

今年度の「かまがや市民活動・男女きらりフェスタ」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、実行委員会で検討した結果、きらり鎌ヶ谷市民会館を会場とした、ブース展示やステージ発表などの対面による開催方法ではなく、インターネットを利用したオンラインにより3月6日に開催することとしました。

また、作戦ミーティングなど事前の会議も、感染のリスクを考慮して今回は行いません。

なお、内容については、現在、実行委員会で検討していますが、講演会やパネルディスカッション等を予定しておりますので、実施の際には是非とも受講していただきたいと思っております。